

# おぼえがき（医療編）と「人生最終段階の医療・介護についての要望」の趣旨

おぼえがき（医療編）は、将来的に老衰、認知症、進行がん、重度の脳卒中、外傷などにより意思の疎通が出来なくなり、人生最終段階と考えられる状態となった場合に備えるためのものです。人生の最終段階における医療・ケアについて本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組みをアドバンス・ケア・プランニングといますが、まずはご自身が最も優先したいことについてご家族と話し合うことをおすすめします。ご自身がどのような医療・介護をうけたいか、あらかじめご家族や親族などと相談のうえ、話し合った内容を「人生最終段階の医療・介護についての要望」（4枚複写）に記載し、かかりつけ医療機関の受付、または地域連携室に提出ください。（記載欄が不足する場合はP8の自由欄を活用してコピーを提出ください。）

原本は医療機関に保管し、今後必要なときに活用いたします。副本は本人控え・家族控え・京都大学控えの3枚です。要望書に記載した内容の変更や撤回はいつでも可能です。変更希望の方は医療機関窓口にあるおぼえがき（医療編）に新たに記入し再度医療機関に提出ください。提出回数に制限はありません。撤回希望のかたは、医療機関窓口までお申し出ください。

©2019年8月時点 おぼえがき（医療編）協力医療機関

【要望書の提出窓口】

早明浦病院（受付）

田井医院（受付）

嶺北中央病院（地域連携室）

注釈：2018年に厚生労働省はアドバンス・ケア・プランニングの愛称を「人生会議」と定め、11月30日は「人生会議の日」と定められました。（1130=いい看取り・看取られ）

# 人生最終段階の医療・介護についての要望

私が病気、外傷あるいは老衰、認知症等により意思の疎通が出来なくなり、人生最終段階と考えられる状態となった場合、私が受ける医療・介護などについて以下のように要望しますので参考にしてください。  
(書いた内容は、いつでも修正・撤回できます。定期的に見直すことも必要です。)

※最終段階とは生命維持処置をおこなわなければ、比較的短期間で死に至ることが予測される時期のことです。

## ◎万一意思を伝えることが困難となったときの連絡先

① 名 前: \_\_\_\_\_ (続 柄: \_\_\_\_\_) 電話番号 (携帯): \_\_\_\_\_

② 名 前: \_\_\_\_\_ (続 柄: \_\_\_\_\_) 電話番号 (携帯): \_\_\_\_\_

## 1. 基本的な希望

### ①医療についての希望

- あらゆる努力により生命の維持を希望する       延命処置は望まない  
 痛み、苦痛を最小限にする治療を希望する       担当医の判断に任せる  
 その他 ( \_\_\_\_\_ )

### ②最終段階の時期を過ごす場所の希望は

- 病院・施設 (名称: \_\_\_\_\_)       自宅       その他 ( \_\_\_\_\_ )

## 2. 経口摂取が困難になった場合の栄養方法 (おぼえがき (医療編) P5-6に説明を記載していますので、ご参照ください)

- ①胃ろう (内視鏡手術で胃に穴をあけて体外から栄養剤を注入)  
 ②経鼻経管栄養 (鼻から胃にチューブを入れて栄養剤を注入)  
 ③鎖骨下などの中心静脈からの高カロリー輸液 (簡単な手術を要す)  
 ④末梢静脈 (腕や足の血管) や皮下からの点滴 (水分と少量の糖分などのみ)  
 ⑤経口摂取のみ (口から食べたり飲んだりできる分のみ)

※ その他 (特に避けて欲しい栄養法がある場合、その理由など含めて自由に記載ください。)

( \_\_\_\_\_ )

自分で決めることができる間は、そのときの私の意見を優先してください。意識がないなど意思表示ができない場合は、医学的・社会的に妥当な限りできるだけこの要望書を参考にご対応くださいますようお願いいたします。

年 月 日 作成

氏 名: \_\_\_\_\_ (自署・押印不要)

家族・身元引受人等の氏名 及び 続柄: \_\_\_\_\_ (自署・押印不要)

(続柄: \_\_\_\_\_)

年 月 日 以上の事項を確認いたしました。

病院・施設担当者: \_\_\_\_\_